

平成24年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰 受賞者について

平成24年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰の受賞個人・団体が決定しましたので、お知らせします。
なお、表彰式は、各部門とも『第26回農山漁村女性の日記念の集い』の中で行われます。

〈平成24年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰〉

1. 目的

農山漁村において女性は、農業就業人口の過半を占めているとともに、起業活動等により、地域において活躍している。しかしながら、農業委員や農協役員等に占める女性の割合は低く、地域の指導的立場への女性の登用は進んでいない。

政府として、「2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度」とすることを目指しており、他分野に比べ遅れている農山漁村において、女性の登用を進めることが急務である。

このため、次世代を担う地域リーダーとなることが見込まれている若手女性及び女性の参画を積極的に推進している組織等を表彰することにより、農山漁村における男女共同参画の取組の推進に資するものとする。

2. 受賞個人・集団

I. 次世代を担う若手地域リーダー部門

農林水産大臣賞

①経営参画部門

・石川県 七尾市 高 博子

②地域参画部門

・千葉県 旭市 平野 佳子

農林水産副大臣賞

①経営参画部門

・栃木県 塩谷町 古沢 昌子

・富山県 砺波市 梅本恵子

②地域参画部門

・愛媛県 伊予市 竹中 伸枝

・宮崎県 日南市 池田 陽子

農林水産大臣政務官賞

①経営参画部門

・群馬県 安中市 須貝 美穂

・滋賀県 甲賀市 奥村 幸恵

②地域参画部門

・静岡県 長泉町 下山 直子

・石川県 金沢市 浜田 博美

II. 組織における女性登用部門

農林水産大臣賞

・岩手県 遠野市 遠野市農業委員会

・鹿児島県 曾於市 曾於市農業委員会

農林水産副大臣賞

・埼玉県 鶴ヶ島市 岡野 とし子

・宮崎県 串間市 串間21レディ

農林水産大臣政務官賞

・大分県 豊後高田市 永松 カズ子

【表彰式等（農山漁村男女共同参画優良活動表彰）】

日時 平成25年3月7日（木）（『第26回農山漁村女性の日記念の集い』のプログラムの中で）

表彰式 10:30～11:10

（※農山漁村女性・シニア活動表彰の表彰式を同時に実施予定。）

活動報告（農山漁村男女共同参画優良活動表彰） 11:20～12:00

活動報告（農山漁村女性・シニア活動表彰） 13:20～14:20

場所 台東区立浅草公会堂（東京都台東区浅草1-38-6 電話：03-3844-7491）

【主催等】

主催 農山漁村男女共同参画推進協議会

後援 農林水産省

協力 全国酪農青年女性会議

問い合わせ先

農山漁村男女共同参画推進協議会

事務局

（社）農山漁村女性・生活活動支援協会内

東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館4階

担当：森

電話：03-5777-5383

平成24年度 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 受賞者

I. 次世代を担う若手地域リーダー部門 ①経営参画部門

賞の名称	都道府県名	受賞者氏名	概要
農林水産大臣賞	石川県	<small>タカ</small> 高 <small>ヒロコ</small> 博子	平成12年に結婚と同時に夫とともに就農。「医食同源」「身土不二」をモットーに土づくりや低農薬栽培を実践してきた。平成14年には地元農業者と「能登エコファーマーズ倶楽部」を組織してエコ農業についてのPR活動に取り組むとともに、夫婦で野菜ソムリエの資格を取得。消費者とのコミュニケーションを重視した販促活動の結果、全国のデパートやレストランに野菜を納入するに至った。平成18年には認定農業者に認定。さらに高農園の販売部門を担う(株)能登大地や、エディブルフラワーの栽培・加工販売を行う「りらく」を設立するなど6次産業化の先駆的存在でもある。
農林水産副大臣賞	栃木県	<small>フルサフ</small> 古沢 <small>マサコ</small> 昌子	3人姉妹の長女として生まれ平成16年に結婚と同時に本格的に農業を継ぐことを決意し、就農。父の経営する「いなほ総合農園」の加工部門を担当。平成24年に家族経営協定を実父母と締結し、父親との共同申請でエコファーマーと認定農業者の認定を受けた。また、大型特殊免許の取得等、農業技術の習得にも努めている。さらに県内の若手農業者とともに農産物のマーケティングや新商品開発を行う「農援団」活動にも積極的に取り組むとともに農業体験も受け入れるなど、農産物の生産と販売、加工、さらに地域活動まで農業経営にトータルに取り組んでいる。
	富山県	<small>ウメモト</small> 梅本 <small>ケイコ</small> 恵子	水稻・大豆の種子生産農家に嫁ぎ、夫とともに就農。種子生産に野菜や花き生産を加える複合経営にチャレンジ。平成14年には夫を社長とする「有限会社梅香園」を設立、取締役として花き部門の責任者を務め、社員教育等も担当している。自社農園直売所では、寄せ植え等の講習会を行い集客に努めるとともに、ハーブコーディネーターやアロマセラピーの指導員資格を取得して、各方面で教室も開催。また米粉を利用した菓子の商品化に取り組み、6次産業化のモデルとして注目され、さらに中学生の職場体験や研修生も積極的に受け入れ、担い手育成にも貢献している。
農林水産大臣 政務官賞	群馬県	<small>スガイ</small> 須貝 <small>ミホ</small> 美穂	平成15年就農。就農当時、増頭が思うように出来なかった課題を、飼養管理方法の見直しを行うことで解消し、増頭に成功。労力の省力化と労働時間短縮のために県内でもあまり例がない「ロボット搾乳」も導入した。また乳牛の自家育成のために、人工授精師資格を独学で取得し、円滑な乳牛改良を可能とした。現在、乳牛の繁殖、育成牛管理のすべてを担当しており、飼養環境を各個体に合わせて牛の耐用年数を延長し、更なる生産性の向上、経営の合理化に取り組んでいる。加入しているJA青壮年部では、地域農産物の普及と消費拡大にも努めている。
	滋賀県	<small>オクムラ</small> 奥村 <small>ユキエ</small> 幸恵	平成12年、茶の専業農家の後継者と結婚。平成19年から義母が加入しているイチゴ栽培グループで生産管理などを一部担当したが、平成21年から本格的にイチゴ生産に携わり、平成23年からはイチゴの加工品の開発・販売に意欲的に取り組んでいる。さらに、農事組合法人「グリーンティ土山」では、主に広報担当をしており、シンボルマークを作成するなど商品の知名度向上につなげている。農業・家事・育児をバランス良くこなし、同年代女性のモデルとなっている。

I. 次世代を担う若手地域リーダー部門 ②地域参画部門

賞の名称	都道府県名	受賞者氏名	概要
農林水産大臣賞	千葉県	<small>ヒラノ</small> 平野 <small>ヨシコ</small> 佳子	施設野菜農家に生まれ、結婚後就農。平成16年に経営移譲を受け、経営主として「JAちばみどり旭胡瓜部会」に参加するが、集まりに出てくる女性が少ないことに疑問を持ち、女性に呼びかけ、市場関係者への試食会などを開催し、女性よる産地PRに取り組む。また、キュウリの需要を伸ばすために、部会内に女性9人で「ハート倶楽部」を結成し、初代会長となってハート型キュウリの生産、販売促進活動等に取り組み、年間5万本を出荷。これらの取り組みを通じて、これまで男性社会であった生産組織で、女性たちが発言できる環境づくりに貢献するとともに、女性たちの農業経営への参画意識の向上に大きく貢献した。
農林水産副大臣賞	愛媛県	<small>タケナカ</small> 竹中 <small>ノエ</small> 伸枝	平成12年就農。積極的にトレードフェアに参加したり、市場出荷を通じて関係者からの生の声を聞くことにより、販路開拓や品質向上に取り組む。また、スイスの畜産農家での研修をきっかけに園芸療法に目覚め、認定園芸療法士の資格を取得。花を育てる楽しみを通じて病気を抱えた子どもの心をサポートする活動には、医療関係者の期待も高まっている。さらに、消費者を対象に園芸教室を開催して地域への花育活動を実施するとともに、消費者ニーズを掴む機会ともしている。平成22年には、若手女性農業者のグループ「カラフルリーフ」を結成して、担い手としても活動を行っている。
	宮崎県	<small>イケダ</small> 池田 <small>ヨウコ</small> 陽子	平成7年結婚と同時に就農。平成16年にJAはまゆう女性部のフレッシュミズリーダーに就任し、若い世代が楽しめるような定期的な講座を提案した。「WINK(ウィンク)」と名付けた月1回の講座は、子育て世代の生きがいの場へと発展している。農繁期で活動に参加できなくても農繁期をすぎればまた仲間との時間を過ごせる「場」となっており、仕事・育児・家事のバランスを取りながら、活動を続けていけることに特徴がある。農家にとらわれず、漁業・商業・非農家の主婦にも呼びかけ活動してきた結果、JA女性部は50人増加した。若い女性の積極的な活動が、地域の活性化に繋がっている。
農林水産大臣 政務官賞	静岡県	<small>シモヤマ</small> 下山 <small>ナオコ</small> 直子	平成16年、50年以上続く柿園農家の3代目として家業を継いで就農。海外勤務、NPO活動の経験による柔軟な発想から、町の観光交流協会において特産の四つ溝柿を県内外にPRし、認知度を高める活動や、農作業体験の受け入れを実施するなどの活動に取り組んでいる。また、アメリカ在住時に出会ったアーティーチョークの栽培を開始、日本では馴染みがないため、栽培方法の工夫や飛び込み営業などの努力を重ねて販路を開拓した。ホームページやブログを活用して全国に「農」の魅力を発信を行うとともに、経営においては、四つ溝柿、アーティーチョークの栽培管理の他、広報や顧客管理を担当。2年後に父から経営移譲の予定。
	石川県	<small>ハマダ</small> 浜田 <small>ヒロミ</small> 博美	平成15年、底曳き網漁船船主の長男と結婚し就業。漁業を取り巻く環境の悪化により家業の経営が圧迫されるようになったため、魚を直接消費者に届けることとし、夫婦で移動販売「浜屋」を始めた。複数の市場での買い付けによる仕入量の安定・販売品目の増加、加工品の製造販売など、徹底して顧客のニーズに応える活動を行った結果、最初は数人だった顧客が100人以上にまで増加した。さらに移動販売販売地域以外の顧客も増え始めたため、メールによる注文販売も行っている。また移動販売を通して日常的な魚食普及活動を実践している。

II. 組織における女性登用部門

順位	賞の名称	都道府県名	都道府県等の推薦者	受賞者氏名 受賞組織名	組織の種類	備考
1	農林水産大臣賞	岩手県	岩手県 農業会議	<small>トオノシ</small> 遠野市農業委員会	農業委員会	平成24年3月の農業委員の改選期を控え、農業委員会会長が市長、市議会議長へ女性農業委員の選任を要請した結果、市議会から3名の推薦があり、選挙委員1名と合わせて4名の女性が登用された。遠野市農業委員会では、女性による活動を重要な柱に位置づけており、全ての委員会等に女性を配置している。また女性農業委員の活動を実効あるものとするため、農業委員会会長の発案により、「女性農業委員業務検討会」を設置し、この会で話し合われたことは男性の協力を得ながら一体となった成果につなげている。
2		鹿児島県	鹿児島県 農業会議	<small>ソオシ</small> 曾於市農業委員会	農業委員会	曾於市では農業委員会も参画した「曾於市男女共同参画推進会議」が設置され、審議会・委員会等への女性委員の計画的取り組みを実施している。平成23年度の改選期には、これまでの専任委員の選挙への立候補を促すとともに、新たな女性委員の選任について県女性組織等の協力を得つつ、市長・議長に対して要請活動を展開した結果、選挙委員3名、選任委員3名の計6名の女性農業委員が誕生した(改選前は3名)。農地行政活動はもとより、女性農業委員が中心となり「食と農と女性の会」を設立し、講演会、交流会等を実施して地域の活性化にも大きく貢献している。
3	農林水産副大臣賞	埼玉県	埼玉県	<small>オカノ</small> 岡野 とし子	市町村	岡野氏は、昭和46年に専業農家に嫁ぎ、昭和63年に鶴ヶ島市初の女性農業者組織「ひまわり会」を発足させ、初代会長となった。鶴ヶ島市農業委員会では、平成17年から議会推薦2名を女性農業者から推薦することを決め、ひまわり会とJAいるま野女性部から1名ずつ女性農業委員を輩出している。氏は平成17年に鶴ヶ島市初の女性農業委員となり、遊休農地解消対策に取り組み、19haの遊休農地のうち1haの解消に結びつけている。また、市の男女共同参画推進プランの策定委員としてひまわり会の女性農業者が委嘱されるなど、ひまわり会を通じた女性の地域社会参画が進展している。
4		宮崎県	宮崎県	<small>クシマ</small> 串間21レディ	その他(平成16年度に発足した農村女性リーダーの組織)	串間21レディは、宮崎県が認定している農村女性指導士で構成しており、様々な役職を担える女性リーダーが育成している。現在、構成員12名の中から2名の女性農業委員、2名の審議員(農政懇話会、担い手協議会)、3名がJA関連の役員に登用され、各種の提言活動は地域でも広く認められている。行政頼みでない、構成員自らが見極めた人材を次期リーダーとして育成することで、確実な人材育成と目標がぶれないスムーズな組織運営を図っている。
5	農林水産大臣 政務官賞	大分県	大分県	<small>ナガマツ</small> 永松 カズ子	農業協同組合、 農業委員会	永松氏は、長年様々な立場から女性登用に向けた活動に尽力しており、県全域での功績が認められる。会長を務める大分県農協女性組織協議会は、農協中央会に女性登用についての要望活動を行い、平成14年と早い段階から参与の役職を2名設定している。また豊後高田市における女性農業委員の登用に向け、豊後高田市農漁村女性集団連絡協議会の役員として、市議会、農協、農業委員会に対する地道な要望活動を行い1名の登用を実現した。また、直売所の運営に役員として関わり、自ら社会参画・地域活性化に取り組むとともに、若手女性の育成にも積極的である。